

第4回塩谷広域行政組合ごみ処理検討委員会報告

1. 日 時

平成17年8月29日 13時30分～15時10分

2. 場 所

塩谷広域行政事務組合 1階大会議室

3. 出席者

職 名	氏 名
委員長	(学識経験者) 西谷弘子
副委員長	(さくら市) 菊池崇雄
委員	(矢板市) 長谷川健
	(さくら市) 関 忠司 天野順子 蛭田幸子
	(塩谷町) 松尾享子 立岡芳司
	(高根沢町) 飯泉八重子 君島 毅
	(地元住民代表) 高塩克敏 岡田 明
	(学識経験者) 小久保行雄
	(アドバイザー) 今泉繁良
職員	(矢板市) 岸本副主幹 高瀬主任
	(さくら市) 添田副主幹
	(塩谷町) 中山主査
	(高根沢町) 荒井課長
事務局	(塩谷広域行政組合) 高久事務局長 阿久津課長 館脇副主幹 磯室長 小堀主幹 印南係長 片野係長 斉藤主任
	(日本技術開発) 古田秀雄 中山伸吾 宮澤俊介

4. 議事次第

1) 開 会

2) あいさつ

3) 議 題

ごみ処理方式について

リデュース部会、リユース・リサイクル部会での検討

その他

4) 閉 会

5. 主な意見

- ・本委員会の主目的は、減量化について検討を行うことである。処理方式については、それに合わせた方式を推薦していく。
- ・処理方式を決定することは、専門的な知識が必要であり、非常に難しいことであるが、我々が判断できる範囲で議論をしていく。
- ・現在、組合では可燃ごみは焼却処理しており、焼却灰は福島県にて委託処理をしている。本来は、自区内処理をすることが望ましく最終処分場を含めた検討を行うべきだが、現実的には難しい状況である旨を事務局より伝えた。
- ・ガス化溶融炉方式では、不燃物の処理も可能であるが、コストやエネルギー使用量、スラグの質等や 3R の方針を考慮すると、分別し処理を行っていくべきである。
- ・可燃ごみ処理施設は、建設コストだけでなく維持管理など総合的に検討を行っていく必要がある旨を伝えた。
- ・スラグ内に重金属が混入するのは、種々排出されるごみ中に含まれる微量な重金属が濃縮されるためであり、分別によって重金属量を減量化することは難しい。
- ・一般廃棄物のリサイクルが進んでいないのは、多種多様なものが排出されたため分別や処理が困難なためである。
- ・スラグの JIS 化の動きもあり、道路材料や建設材料として市町村が積極的に有効利用していただきたいが、重金属等の溶出などについては十分に留意していただきたい。

以上